

NO. 2	議席番号	氏 名	質問事項・要旨及び答弁者
	8	新井田 昭男	
<p>1. 我が町の観光誘致の取り組みについて</p> <p>北海道新幹線事業着手からはや11年目を迎え、昨年12月から新幹線H5系車両による試験走行が開始され、新幹線開業まで残すところわずか1年となりました。</p> <p>5月には新幹線駅舎が完成し、また8月末には完成となる観光交流センターなど、駅前周辺の整備関連事業は概ね順調に推移していると感じているところです。</p> <p>また、当町と檜山地域の主要幹線を結ぶ2次交通の路線バス「江差木古内線」は停留所等の増設により鉄道輸送時より乗客も増員の状況にあり、我が町の観光にも一翼を担っているものと感じています。</p> <p>我が町の観光については、北海道新幹線開業と同時に、この千載一遇のチャンスを活かすべき町長としてのトップセールスをはじめ、新幹線に係る担当課など、行政職員総ぐるみによる我が町を軸とした活動や、渡島・檜山の広域連携による観光客誘致活動には大いに期待をしているところです。</p> <p>しかしながら、残された北海道新幹線開業までの1年間の中で「北の大地の始発駅」として、町全体の観光誘致対策の整備状況を見れば、未だ皆無と思わざるを得ません。</p> <p>過去に、同僚議員や先輩議員からの質問と関連的要素はありますが、住民サイドの立場になって以下の事柄について質問をします。</p> <p>(1) 前段申し上げたとおり、新幹線開業まであと残すところわずか1年となっています。駅周辺のハードインフラ整備は最終段階に近い状況となっていますが、必ずしも町民の皆さんの気運が高鳴る状況ではないと感じています。過去の行政執行としての内容では、町長としてのトップセールスを含め全職員体制での取り組みとしていることは事実であり今後、その成果も期待するところです。</p> <p>しかしながら、問題は何も新幹線だけで来町される観光客だけではなく、第三セクターによる鉄道利用やバス・マイカーなどで来町される観光客もおります。来町をいただいた観光客に町民自らが各名所等の案内ができるように、観光名所パンフレット等を全町内に配付し町民の皆様に再確認をしていただくことや、町内のコンビニ等との連携により町内や広域観光の名所等のパンフレットを置いていただく等の配慮は必要不可欠と考えます。</p>			町長

また、我が町の観光に関わる看板に関しては、少なくとも木古内駅前集中型だけでなく、全町内の名所も含め適材適所に設置をすることも必要と考えますが町長の見解を伺います。

(2) 昨今、議員研修や勉強会において、人口減対策の中で観光や地域の特産品の掘り起こしなどが非常に重要視されていると言われております。我が町の観光資源は、他町村に比べとりわけ多いとは言えない状況だと認識しています。少ない観光資源にどう付加価値を付けて行くのか、来ていただいた皆さんに我が町に長くとどまっていただくにはどんなアプローチの仕方があるのかを考えた時、施設面ではいまある施設の改修利用を図るのか、あるいは新設なのかなど、選択技はいろいろあると思います。

行政では、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の取り組みで地方創生先行型交付金活用の中で、薬師山芝桜植栽事業を掲げていますが、この事業展開の中で展望台の新設の提案をしたいと思っております。四季を通しての運用はできないものと思っておりますが、芝桜の植栽を増やすことにより展望台からの眺めは絶景となり、観光誘致では大きな武器と考えますが町長の見解を伺います。

(3) 町長は、平成27年度町政執行方針の「観光」「広域観光」で、観光協会や体験推進協議会と連携し、従来のイベントや体験観光事業などの継続支援に加え、まちなか回遊や町内観光周遊ルートづくりなど、諸々の開業プロモーション活動を行うとしております。また、町内観光のスポットとして、みそぎ浜や新幹線ビュースポットの整備を行ってまいりますと掲げております。

上記の執行方針について、もう少し具体的な方針策をお聞きします。特に、従来のイベントの継続支援策に大きな変動があるのか。また、町内観光のスポットとして、みそぎ浜や新幹線ビュースポットの整備について具体的にお聞かせください。

広域観光は、新幹線木古内駅活用推進協議会で着々と進められていますが、我が町としての観光推進はどのような方向性や熱意で望むのか。

また、我が町では平成5年3月に策定した「木古内町観光ビジョン」が木古内町の観光の基本ではないのでしょうか。「木古内町観光ビジョン」策定から20年余りが経過していますが今後、時代に見合うように改正をするのか。そのまま時代遅れとし放置をするのか、町長の見解を伺います。